

1	名古屋	名古屋市立丸の内小学校	アサイ ユウキ 浅井 勇貴
分科会番号	1 2	分科会名	自治的諸活動と生活指導（小学校）

研究題目 「みんなで活動するって楽しいね」と実感できる児童の育成
～すてきアッププロジェクトを通して～

研究要項

1 はじめに

私は、「一人では難しいと思ったけれど、友達の協力のおかげで目標に近付くことができた」「みんなで力を合わせるのって楽しいね。次もみんなで学級のために活動したい」のように、共通の目標に向かって他者と協働し、互いの努力や成長を認め合いながら、活動の楽しさや価値を実感することができる児童を育てたいと考える。こうした児童であれば、仲間と協働してよりよい学級づくりに主体的に参画するとともに、互いを認め合いながら、集団の一員としての自覚と自信を深めることができると思う。

また、次期学習指導要領に向けた中央教育審議会の論点整理（令和7年）では、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、多様な他者と協働しながら持続可能な社会の創り手を育成することが示されている。このような中、特別活動において仲間と関わりながら目標の実現に向けて活動し、その楽しさや価値を実感できる経験は、多様な他者と協働する力や、よりよい集団づくりに主体的に参画しようとする態度の育成につながるものであり、意義があると思う。

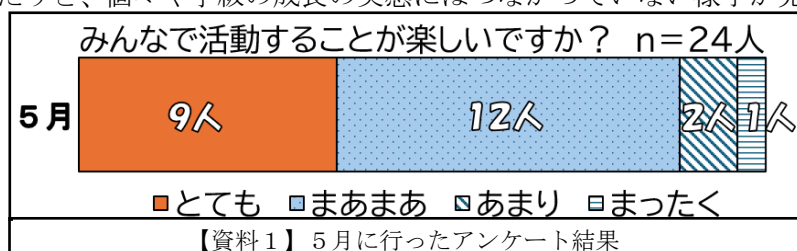
本学級（第3学年 24人）の児童は、集会活動や係活動に前向きに取り組むことができる。しかし、活動の目標や内容を十分理解しないまま取り組んでしまったり、活動を進める中で目標への意識が低くなったりする様子が見られる。また、活動後の振り返りでは、互いを認め合う様子は見られるものの、評価の内容が漠然としたものとなったり、それぞれが目標として定め、努力した内容とは異なる点についての評価だったりと、個々や学級の成長の実感にはつながっていない様子が見られた。5月に行ったアンケート

（資料1）では、みんなで活動することを楽しいと感じていない児童が一部いることが分かった。

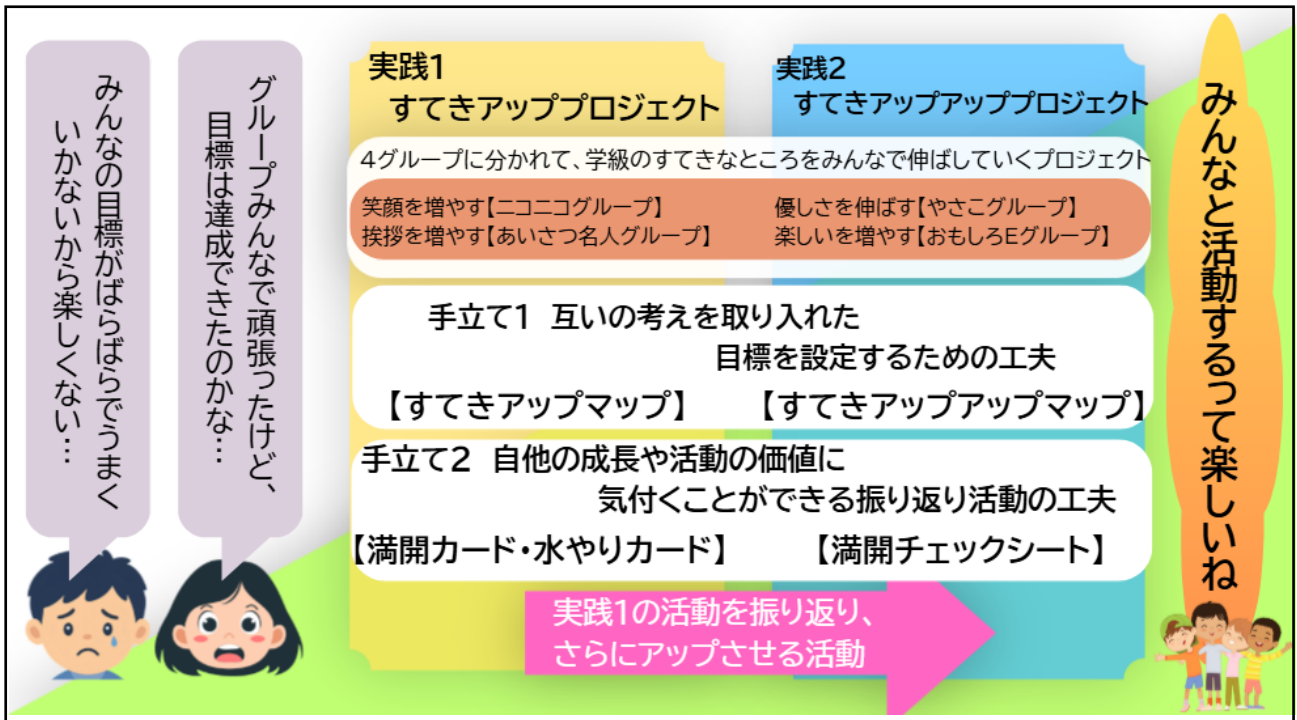
これらは、目標を決める話し合い

において、その手順が明確に示されていないことや、目標と活動のつながりを十分に考える機会が与えられていないことに要因があると考えた。また、振り返り活動において、振り返りの視点が明確になっていないことや目標に基づいた振り返りがされていないことも要因であると考えた。

そこで本研究では、「互いの考えを取り入れた目標を設定するための工夫」と「自他の成長や活動の価値に気付くことができる振り返り活動の工夫」を重点として実践を進める。目標の設定や振り返り活動の工夫により、一人一人が「やってみたい！」と思えるような目標を設定し、その目標に向けて取り組んだ成果を振り返ることで、互いの成長や活動の価値に気付く、「みんなで活動するって楽しいね」と実感できる児童に迫っていきたい。



2 実践の流れ



3 研究題目に迫るための具体的な手立て

【資料2】実践の構造図

(1) 互いの考えを取り入れた目標を設定するための工夫

互いの考えを取り入れた目標を設定できるようにするために【すてきアップマップ】(資料3)を活用することとした。すてきアップマップは、目標設定から企画・運営、振り返りまでを1枚のシートにまとめたものである。目標設定の手順をワークシート上で可視化することで、児童が目標を設定しやすいようにした。また、設定

3年1組の「すてきアップマップ」 名前: 😊

①のぼしたいことを考えよう
のぼしたいところ

②できることを考えよう
やりたいことや

③きかくして、ふりかえろう
振り返り

①のぼしたい学級のすてき

⑤話合いで決まった企画

⑨企画名

②すてきの具体的な場面
のびのびポイント

③すてきをさらに
どんなすてきにしたいか
(目標となる)

⑥企画についての説明
のびのびポイント

⑦目標と企画の関係

⑩目標と企画の関係
について振り返る

④目標に向けてやりたいこと
(振り返りつなげて)

⑧今回までの話合いと
活動へのつながり

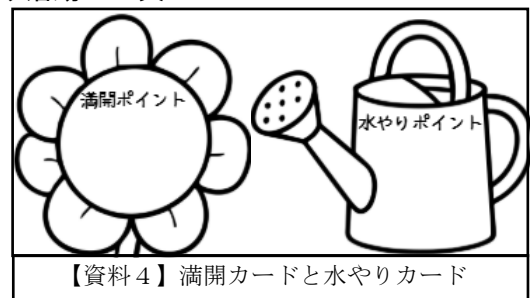
⑪次の活動に向けて

【資料3】すてきアップマップについて

した目標を具体的に記入する欄を設けることで、一人ひとりが自分なりの考えをもって話合いができるようにした。このワークシートを活用することで、児童が互いの考えを共有し、目標設定に生かすとともに、目標と活動のつながりを意識することができる考えた。

(2) 自他の成長や活動の価値に気付くことができる振り返り活動の工夫

自他の成長や活動の価値に気付くことができるようになるための手立てとして、【満開カード・水やりカード】を活用した。これは、各グループの企画終了後に、他者からの評価や助言を取り入れることができるカードである。振り返りの視点を明確にし、互いのよさを認め合うための「満開カード」、次の目標に向けた改善点や助言を伝えるための「水やりカード」(資料4)とし、複数の視点から活動を捉えられるようにした。また、満開カードを教室に掲示し、いつでも振り返ることができる環境を整えた。



4 実践内容

(1) 実践1「すてきアッププロジェクト」

本研究では、「すてきアッププロジェクト」に取り組んだ。本研究における「すてき」とは、児童が学級の好きなところやよさとして捉えているものである。本プロジェクトでは、学級のすてきを全員で考え、その中からさらに伸ばしたい内容を選択して、実現に向けた活動を企画・実践するものである。

① 学級のすてきを考えよう

まず学級会を実施し、写真や日記を活用して学級生活を振り返った。その中で、学級や友達のすてきが表れた具体的な場面を想起しながら、すてきを学級全体で出し合った。話し合いの中では、「もっとよくしたい」「もっとすてきを増やしたい」といった意見が出され、児童が学級のすてきをさらに伸ばしたいという思いをもっていることがうかがえた。話し合いの結果、学級のすてきが四つに分類され（資料5）、児童はそれぞれが伸ばしたいと考えるすてきごとにグループを編成した。

笑顔を増やす 【ニコニコグループ】	優しさを伸ばす 【やさこグループ】
挨拶を増やす 【あいさつ名人グループ】	楽しいを増やす 【おもしろEグループ】

【資料5】四つに分類されたグループ

② 目標の設定に向けて

まず、同じすてきを選択した児童同士でグループを編成し、活動目標や活動内容についてアップマップを基に話し合った。（資料6）やさこグループでは、まず「アップマップに書いてあることをみんなで言おうよ」と児童がアップマップの手順に沿って進めていった。「みんなのよいところを紹介してほめる」「優しい言葉をたくさん使う」「みんなと一緒に遊ぶ」などの意見が出された。共通する部分に印を付けて、グループで大事にしたいところが分かるようにしていた。その結果、「みんなのよいところを伝え合う」を目標として設定し（資料7）、寄せ書き形式で互いのよいところを伝え合う活動を企画した。他のグループも、伸ばしたいすてきと関連付けた活動の内容を考えることができた。しかし、活動内容の決定理由について尋ねると、「いいと思ったから」と答える児童が多く、自分と友達の考えを比較しながら話し合いを進める姿はまだ見られなかった。



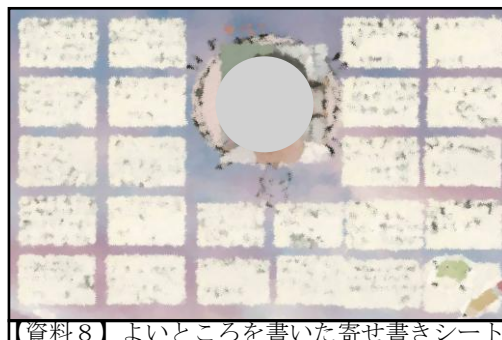
【資料6】シートを使って話し合う様子

①のばしたいことを考えよう のばしたいところ やさしい・思いやり	②のびたいことを考えよう のびたいところ やさこほめほめ
わらしが見た「き」組のすてきポイント 給食をこぼした時にみんなが助けてる 友達にすごいねとかありがたうって言うてる。 のびーポイント みんなのいいところをしょう かいしてほめる	そのすてきでどんなきかえかな？ よせがきにしてみんなから いいところを書いてもらおう のびーポイント みんなのいいところを紙に書 いてほめる

【資料7】すてきアップマップへの児童の記述

③ 企画した活動の様子

児童は、自分たちが考えた企画の実現に向け、意欲的に準備に取り組む様子が見られた。やさこグループでは、好きなことや好きな色などについてのアンケートを実施し、その結果を基に一人ひとりのオリジナル寄せ書きシートを作成した。完成した寄せ書きシート（資料8）をもらった児童は、休み時間に何度もシートを読み返し、うれしそうな表情を浮かべていた。その姿を見たやさこグループの児童も満足そうな表情を浮かべていた。他のグループも休み時間や朝の時間に積極的に声を挙げて活動に取り組み、どのグループの活動も盛り上がりを見せていた。



【資料8】よいところを書いた寄せ書きシート

④ 活動を振り返って

活動後の振り返りでは、学級全体でよかった点を「満開カード」へ、改善点や助言を「水やりカード」へ記入し、活動を実施したグループへ渡した。(資料9)

やさこグループに送られた満開カードには、「(寄せ書きで) みんながほめてくれてやさしい気持ちになった」「みんなの言葉がやさしかった」と記述された。やさこグループの児童は、このカードから活動の価値を実感していた。一方、水やりカードには、「(寄せ書きに) 同じことがいっぱい書いてあった」「短い言葉だけになっている子もいた」などの意見が見られた。(資料10)

水やりカードを送り合うと、児童は「確かに私も同じことを思った。アドバイスをもらったところを、もっとよくしたいね」と前向きな発言をしていた。しかし、カードには感想が多く書かれており、目標に関連した内容は少なかった。

その後、児童は受け取ったカードを基に個人で振り返りを行い、自分たちのグループの活動の成果や改善点をマップに整理した。児童からは、「アドバイスをもらったことを生かして、もう一回企画をやりたい」と次の活動への意識が高まる発言が見られた。



【資料9】カードを読み合う様子



【資料10】満開カードと水やりカードへの記述

(2) 実践1の成果：○と課題：●

- 「すてきアップマップ」の活用により、児童一人ひとりが目標と関連付けた活動内容を考えて、目標設定の話合いに参加することができた。
- 「満開カード」の活用により、自分たちの活動を「よかった点」と「アドバイス」の二つの視点から捉え、活動の価値を実感することができた。
- 目標に対する自分の考えをもつことはできたものの、友達のととの共通点や相違点を比較・検討するための手立てが不十分で、互いの考えを十分に理解した上で目標を設定するまでには至らなかった。
- 「満開カード」には活動目標に関する記述も見られたが、その数は少なかった。二つのポイントを示すだけでは視点の明確化には不十分であり、目標について認め合うことができなかった。

実践2に向けた改善点

- ・ 「すてきアップアップマップ」の活用による複数の視点を比較した目標設定の工夫
- ・ 「満開チェックシート」の活用による、さらに視点を明確にした振り返り活動の工夫

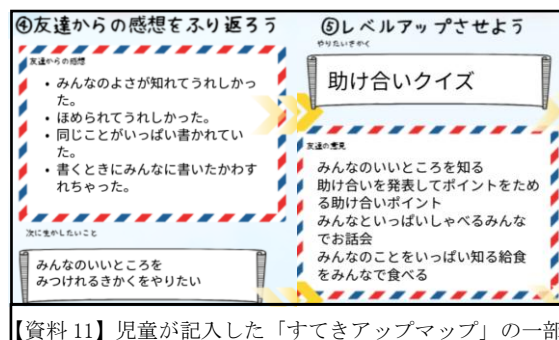
(3) 実践2「学級のすてきをもっと伸ばそう『すてきアップアッププロジェクト』」

実践1終了後には、「次はこんな活動をしたい」「この前、楽しかったからまたやってみたい」などの発言が聞かれた。そこで、実践1の成果と課題を踏まえ、学級のすてきをさらに伸ばすことを目的として、「すてきアップアッププロジェクト」を実施した。

① 目標の設定に向けて

実践2では、「すてきアップアップマップ」を活用した。このマップには、自分の考えや自己評価だけでなく、友達のととの考えや他者評価を記録する欄を設け、複数の視点を比較しながら目標設定や振り返りができるようにした。

やさこグループのある児童は、「同じことがいっぱい書いてあった」「短い言葉の子もいた」という意見から、マップに「みんなのよいところを見付けられる企画をやりたい」と考えをまとめていた。(資料11) マップを書き終わると、グループのメンバーでマップを使って、目標を設定するために以下のように話し合いを進めていた。



【資料11】児童が記入した「すてきアップマップ」の一部

C1：「みんなが同じことを書いている」ってあったから、書いたよ。みんなは何て書いた？

C2：私の寄せ書きシートもそうだったから同じこと書いたよ。

C1：何で同じことばっかりになっちゃったんだろう。

C3：「短い言葉の子もいた」という意見もあったよ。意外にみんな、お互いのことをよく知らないんじゃないかな？

C2：確かに、私が書くときに何書こうか迷ったから、そうかもしれない。

C1：じゃあみんなのよいところをもっと知ることを目標にした企画にしようよ。

自分の考えと友達の考えの共通点をマップで確認しながら話合うことで、互いの考えを取り入れた目標を考えることができた。そして、やさこグループでは、「みんなのよいところをもっと知る」ことを目標として設定した。

その後、話し合いを進め、助け合いが見られた場面を紹介し合い、その内容に応じてスタンプカードにスタンプを押してレベルアップしていく「やさこの大冒険」という活動を企画した。企画を選定した理由について児童に問い掛けると、「みんなの意見を聞いて、同じことを書いていたから、みんなの知らないよいところを見付けたいと思ったから」と説明していた。目標設定と企画決定後の振り返りでは、「みんなと話し合ったことで、みんなと同じことを考えていたことがわかった」との記述が見られた。他のグループでも、マップを活用しながら話し合いを進める様子が見られた。おもしろEグループは、実践1で朝の時間にクイズ大会を企画し、好評を得ていた。それでもアドバイスを見返し、クイズの題材を工夫し、さらにより企画にしようと話し合う様子が見られた。

② 企画した活動の様子

「やさこの大冒険」では、活動の目標を学級全体に伝え、目標を共有することから企画をスタートした。助け合いが見られた場面を紹介する帰りの会では、多くの児童が挙手をして発言していた。スタンプカードには、多くのスタンプが押され、「みんなのよいところを知る」という目標に学級全体で近づく様子が見られた。(資料12) 他のグループも企画を行い、おもしろEグループでは、個人に関するものをクイズの題材にすることで、より楽しめるようにという目標を意識して取り組む様子が見られた。



【資料12】スタンプをもらう様子

③ 活動を振り返って

企画実施後、「満開チェックシート」(資料13)を活用して振り返りを行った。満開チェックシートは、「めあて」「みんなの頑張り」「学級の様子」「これからの自分」についての項目を示し、この中から視点を選んで振り返りができるようにするシートである。

児童はシートを確認しながら、その視点に沿ってカードを記入した。「何を書けばいいかが分かるからチェックシートいいね」と発言しながら書く児



【資料13】満開チェックシート

童も見られた。「助け合いをたくさん見付けて、助け合っていることが分かった」「前よりも友達を助けられた」など、目標と関連付けた記述が多く見られた。

やさこグループに送られた満開カードには、「みんなが発表したからよく知れた」「自分も頑張ろうと思った」などの記述が見られた。一方、水やりカードには、「あまり名前が出なかった子が分からなかった」「誰を紹介していたのか忘れた」など、活動をさらに改善するための意見が見られた。(資料14) 目標に沿った評価を受けたことで、児童からは「企画をやって、みんなの発表をたくさん聞けたから、次もみんなでやろう」という発言が聞かれた。



【資料14】視点を入れて渡したカード

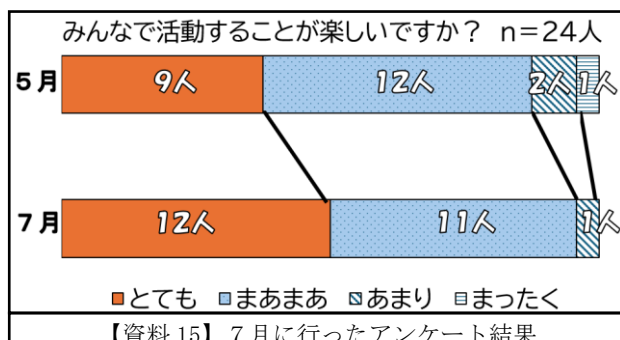
(4) 実践2の成果：○と課題：●

- 「すてきアップアップマップ」を活用して自己評価や他者評価、友達の考えを比較できるようにしたことで、複数の視点から課題を捉え、目標を設定することができたと考えられる。
- 「満開チェックシート」を活用したことで、どの視点で書けばよいのかを児童が理解することができ、活動目標に沿った振り返りが増加した。
- 共通する意見を中心に目標設定したため、少数意見が十分に生かされない場面も見られた。
- 振り返りの視点を明確にしたことで目標に沿った振り返りは増えたものの、自由な気付きや感想を記述しにくい様子も見られた。

5 おわりに

本研究では、「みんなで活動するって楽しいね」と実感できる児童の育成を目指し、「互いの考えを取り入れた目標を設定するための工夫」と「自他の成長や活動の価値に気付くことができる振り返り活動の工夫」を行った。実践を通して、児童は自分や友達の考えを基に目標を設定し、その実現に向けて協力して活動することができた。また、活動後には互いの成長や活動の成果について認め合う姿が見られ、個々や学級全体の成長に目を向けながら振り返ることができるようになった。特に、実践2では、児童が友達の考えとの共通点や相違点を比較しながら目標を決定したり、活動目標に基づいて相互評価を行ったりする姿が見られた。

7月に5月と同様のアンケートを行った。(資料15) 5月に比べて、否定的な回答をする児童が減り、「とても楽しい」と回答する児童が増えた。また、活動後に学級全体で集まった満開カードを見ながら、活動について話していると、「みんなで決めたことをみんなでやって楽しかった。2学期もこの企画を進めたい」や「みんなの助け合いを知ったから、もう一回よいところを集めたいな」との声が挙がった。以上のことから、本実践で取り組んだ手立てが、共通の目標に向かって他者と協働し、互いの努力や成長を認め合いながら、活動の楽しさや価値を実感できる児童を育成する上で有効であったと考える。



【資料15】7月に行ったアンケート結果

今後は、一人ひとりの思いや願いをより大切にしながら合意形成を図る方法や、目標に基づく振り返りと自由な気付きの両方を生かした振り返り活動の在り方について研究を深めていきたい。そして、児童が自治的な活動を通して「みんなで活動するって楽しいね」と実感し、よりよい学級づくりに主体的に参画できるよう、実践を積み重ねていきたい。